

## 第3号議案

### 2022(令和4)年度事業計画及び予算

#### 1. 2022年度事業

ならびに活動計画

#### 2. 2022年度事業予算

## 1. 2022 年度 事業ならびに活動計画

## 2022 年度事業ならびに活動計画

特定非営利活動法人 安全工学会

\*\*\*\*\*

### 定款第 3 条（目的）

この法人は、主として産業に関する安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図り、もって産業及び学術の発展並びに社会の安全安心の獲得に貢献することを目的とする。

\*\*\*\*\*

### 1. 事業活動方針

感染拡大が治まらない新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）への対処の中から、インターネット会議・講演会の有効性が認識され（参加者の拘束時間の短縮、出張経費の削減など）新たな情報交換手段として期待を集めている。さらに待望される現地対面開催との、ハイブリッド効果が注目されている（本会では昨年 PSS 2021 で試行／発信側からの一方通行型）。会員への感染の影響を受けることなく、学会の本来の活動を再開し、加えてハイブリッド開催による一步進んだ学会サービスに努めることを模索する。

2021 年度は、コロナ禍の下、その影響を防護することを前提に、Web による遠隔会議・講演会などを駆使し、学会本来の活動の再開、再構築を模索し、開催を見送っていた「安全工学実験講座」、「地域セミナー（千葉山武地区）」を、再開した。

2022 年度は、さらに「安全管理の最新動向」、「安全教育セミナー」などの再開を目指し、ハイブリッド開催（まずは発信側のみから）の採用を進め、セミナー・講演会のテキストのカラー印刷化などを進めて行く。

2017 年（創立 60 周年）以降、さまざまな会議体で得られた 6 つの要点（教育、継続的ビジョンの見直し&設定、研究会企画、防災、プロセス安全、学会の社会貢献）に対して、2019 年度の萌芽、2020 年度のコロナ禍による停滞を経て、2021 年度は対抗手段の、会議やセミナーのインターネット開催の手法の取り込みに努めてきた。2022 年度はハイブリッド開催など、一步進めた具体的な活動を進める。

2018 年 6 月に安全工学会から分離独立した保安力向上センターとの連携協力について、今後も引き続き、実質的、且つ具体的な相乗効果を目指して推進してゆく。

『(1)教育』については、企画委員会で検討を進め、枠組みの提案を学術委員会に提示した。2021 年度は残念ながら停滞したが、学術委員会で具体化に向け検討を進める。

『(2)学会の Vision の見直し&設定の仕組み』については、理事会に加え、企画委員会を介して提言を行う若手学会員を核とした将来構想研究会が発足し、2019 年度の研究発表会で WS を開催するなどの活動を開始した。2020 年度、2021 年度の空白を経るが、Web 会議などを駆使し、2022 年度は若手メンバーの研鑽、情報交換の場として活動を定着し、具体的な問題提起や提言の発信を目指す。

『(3)研究会・研究部会の企画』については、企画委員会で産業防災研究会を立ち上げ、学術委員会の所掌に移し、2021 年以降具体的な活動（安全工学シンポジウムでの講演、第 54 回研究発表会での講演、「COVID-19 禍におけるプロセス産業のリスク管理アンケート」など）を継続している。2022 年度は、改めて企画委員会で「安全工学会の活動範囲について

て」から議論を交えて、今後向かうべき方向を確認して行く。

『(4)防災と安全工学』については、前記のように産業防災研究会が継続的に活動している。2022年度は同研究会の活動（コロナ禍への産業界の対応状況の系統的な記録、NATECH Safety Management Framework の構築など）を軸に、防災学術連携体との連携を交え、Vision と Mission を明確にして活動を進めてゆく。

『(5)化学プロセス安全』については、企画中のプロセス安全管理手法研究会を進め、Vision と Mission を明確にして活動を進める。

さらに2017年のCCPSのGSPSの開催を機に、2018年岡山、2019年四日市、2020年及び2021年Webで研究発表会と合同開催と進んできたプロセス安全シンポジウム（PSS）を、2022年度も継続して開催する（今回は研究発表会とは分離開催予定）。2022PSSでは、原点に戻り、現地の現場に戻り実際の安全について生の情報を交換し、相互に啓発し研鑽を積む貴重な場を、改めて提供する。併せて、「学」の目から俯瞰して、これを大系化することを模索する。

『(6)収益（学会の社会貢献の成果）』については、総務委員会の提案（消費税の10%化を踏まえて、学会の会費の適正化）を検討し、2020年度、さらに学会の付加価値の在り方を加味して検討する方向が提示され、仕切り直しを図り検討した。2021年度、2022年度は、学会の将来構想と連携した、貢献の付加価値を加味した案としてまとめて行く。

また、周辺学協会との連携に努め、講演会、セミナー、講習会などの集客を図り、会議やセミナーのハイブリッド開催についても連携を継続して強化してゆく。学会の将来構想に基づいた戦略的な連携を模索する。

2019年度は、奨励賞を改定し、研究発表会での発表技術を表彰する優秀・学生講演賞と、学術技術奨励賞とを創設した（奨励賞は廃止）。主に若手及び中堅の会員を適切な形で顕彰することを目指した。2021年度も継承し（計9件の表彰）、2022年度も同様に定着に務める。

学会の普及啓発活動については、コロナ禍の状況下、感染予防を前提に、Webの活用などにより、ハイブリッド開催の利点を活かし、活動の再開、実施を模索する。これまでも周辺学協会や工業協会との連携を図っているが、一歩進んで、他学会との共同企画の推進なども、横串学会の真価を発揮すべく、模索してゆく。

安全工学会誌の論文発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として、重要な役割を果たしている。2022年度も、研究会などの成果を積極的に発信する。また、「安全工学」を軸に、非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在といえ、この特徴を大切に育てる（英文原稿の奨励、設置した英文誌小委員会の活動推進など）。

## 2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

### 2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

#### ① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全及び安全教育に関し検討を進め、普及、啓発活動に注力する。研究会活動の活性化（医療安全研究会、産業防災研究会など）、再構築に努力する（特に学術委員会から産み出す研究会活動の模索に注力する）。

#### ② 安全工学シンポジウム 2022

安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加 (PD or OS:「ウィズコロナ禍での安全体験研修の在り方」 / (実行委員会検討中)、OS:「安全文化 (仮/調整中)」、他)。

開催月日: 2022年6月30日(水) ~ 7月1日(金)

開催場所: 日本学術会議

参加予定者: 550名

主催: 日本学術会議

幹事学会: (公社) 土木学会

共催: 安全工学会ほか34学協会

③ 安全工学研究発表会 (第55回)

安全工学会の研究成果の発表会を開催する。同時に安全工学に係る情報交流の場、学術及び技術の切磋琢磨の場を、産官学、また学界や各協会を横串として貫く形で提供する。

開催月日: 2022年12月1日(木) ~ 2日(金)

開催場所: 米子コンベンションセンター (鳥取県)

(但しコロナ禍を睨みハイブリッド開催なども柔軟に検討する)

参加予定者: 150名

④ 2022 プロセス安全シンポジウム (2022 PSS)

プロセス安全に特化した情報交流、切磋琢磨の場として、2022 プロセス安全シンポジウム(2022 PSS)を開催する。今回は、活動の原点に戻り、現地の現場に即し、実際の安全について生の情報を交換し、相互に啓発し研鑽を積むことに重点を置く。

開催月日: 未定

開催場所: 検討中 (上記の主旨に相応しい場所)

(但しコロナ禍を睨みハイブリッド開催なども柔軟に検討する)

参加予定者: 200名

⑤ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 3-4回

安全工学研究発表実行委員会 1-2回

医療安全研究会 6回

産業防災研究会 4~6回 (必要に応じ短時間、複数回も)

新規研究会の立ち上げ 随時

## 2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

### 2.2.1 一般普及事業

#### (1) 会誌 “安全工学”

①発行 印刷物の発行 年6回/480ページ前後

#### ②電子化推進

J-stageの公開 2016年6月発行分~実施済み、逐次更新

J-stage公開の推進 (過去の掲載については作業終了)

#### ③英文誌の検討

J-stageを介した派生誌としての英文誌の検討 (オープンアクセスなど) のため、2021年度に編集委員会下に英文誌小委員会を設置した。この活動を推進し、また既



## 2. 3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行う。また、非会員へのPRを推進する（継続）。

## 2. 4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

学会賞授与 安全工学に貢献した学術業績、優秀論文、功労者を表彰する。

対象：安全工学論文賞(2件以内)、玉置功労賞(2名以内)、北川学術賞(2名以内)、優秀・学生講演賞(2名以内／研究発表会で決定・表彰)、学術技術奨励賞(2名以内)。

## 2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES (Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合)に参加（継続）、APSS、CCPS、ICSIなどとの情報交換を継続、発展させる（継続）。

### ①諸会費

(社)日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入（継続）

### ②安全工学シンポジウム 2022 他

③防災学術連携体、日本化学連合(オブザーバー)への参加を継続し、接点を模索する。

④化学工学会、石油化学工業会、日本化学工業協会、化成品工業会、(独)情報処理推進機構などの周辺学協会との連携を深める。

## 2. 6 管理業務

### ①総会 1回開催

開催月日：2022年5月23日(月)

開催場所：タワーホール船堀 小ホール(都営新宿線 船堀駅前)

### ②理事会 5回開催(コロナ禍に配慮してWebexのインターネット開催など)

開催月日：2022年5月9日(月)、23日(月)、  
2022年7月、11月、2023年3月(調整中)

### ③評議員会 1回開催

開催月日：2022年5月調整中

### ④監事会 1回開催

開催月日：2022年4月22日(金)

### ⑤委員会

総務委員会 必要に応じて開催

企画委員会 4回開催

アドバイザリーボード 1回開催(コロナ禍で3年間開催を見合わせているが再構築中)

### ⑥現場研修会 2回開催

開催日：2022年4～9月、2023年3月予定

見学先：調整中

参加予定人員：安全工学会の会員 各回20～30名

その他未定

以上